

講演に参加された方からの質問



Q 認知症と診断された時は…

A 医者から認知症と言われた記憶がない。医者から言われる前に認知症だと思っていたから、落ち込んだ記憶もない。さっさと受け入れたら気持ちが楽になった。記憶がないということのメリットは、昔の自分に近づこうとしなくてもいいということ。できたことができなくなっても平気。

Q 見た目が認知症だとわからないのですが…

A わからないように努力をしている。基本的に一般人のふりをして、見た目を大事にしている。

Q 銀行のATMでの引き出し方がわからなくなり、家族からは、なんでできないのかと言われてしまう…

A できなくなることは、その瞬間まで、わからない。自分は、ネクタイの締め方が突然わからなくなった。何か言われたら、認知症なんだと開き直るようにしている。現金の引き出しはカードではなく、通帳と印鑑で引き出している。

若年性認知症のことは東京都多摩若年性認知症総合支援センターの若年性認知症支援コーディネーターにご相談ください。
相談は無料です。(042)843-2198

Q ガスの取り扱いについてどうされていますか？

A 調理中は、火の元から離れないようにしている。作っているその場で食事を済ませてしまうこともある。別の何かをしてしまうと記憶がなくなるので、調理以外のことは絶対にしないようにしている。その人その人でうまいやり方を考えればいいと思う。

Q 進行を遅らせるためにしていることはありますか？

A 医師からは、外に出て運動しなさいと言われた。今日は自転車で2時間かけてここまで来た。進行が抑えられているような気がする。

参加された女性介護者の方から…

認知症は忘れてしまうのではなく、脳が記憶しないから思い出せないのです。本人に対して、今日は何曜日？とか朝何食べた？とか思い出させるのではなく、ちょっとした日常会話が大事なのだと思います。

参加された方は「話されていた言葉1つ1つが心の中にすーっと入っていく感じがしました。」「とてもいいお話を聴くことができて、安心しました。」と話していました。



八王子ケアラーズカフェわたぼうし
お問い合わせ (042)686-2779

営業日:火曜日～土曜日(日曜、月曜、祝日を除く)
10:00～16:00

